

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	田辺市立芳養小学校	木村 真由美
学校所在地		
(〒 646 - 0063) 和歌山県田辺市芳養松原二丁目18-36 tel 0739 (22) 1422 fax 0739 (22) 1442		
担当者名		役職名・担当教科
林 駿/小林 万里子		教諭・担任
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は、田辺市の西部に位置し、芳養町の高台に位置する。校区には、国道42号線が通っている。住宅開発も進んでいるが、古くからこの地域に住む方々も多く、住人の年齢層も幅広い。教育活動にも積極的に協力してくれる方も多く、地域一帯となって子供たちを育てる環境がある。創立明治6年(1873年)で、今年度で150周年にあたる。児童数は236名の中規模校である。校舎は3棟あり、グラウンドも大変大きい。学校近くには芳養王子があり、その向こう側には太平洋が広がっている。芳養の歴史と自然に囲まれた小学校である。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等(延人数)	主な活動場所
学年 5 年生 47 名	3名 職員 3名	芳養王子・芳養一里塚・潮垢璃浜跡史跡・出立王子
実践研究テーマ		
めざせ 語り部名人 ～自分の郷土を語る子に～		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	芳養のいま・むかし 熊野古道にゆかりのあるもの	
〔キーワード〕 世界遺産学習		
<p>〔単元目標〕</p> <p>(1) 自分たちの地域について、自分の力で学んでいける子どもの育成〈知識・技能〉</p> <p>(2) 自分たちの地域について、教科・領域での学びを生かす子どもの育成〈思考・判断・表現〉</p> <p>(3) 自分たちの地域の今と昔を学習していく中で、違いを認め合い、共に学び合う子どもの育成 〈主体的に学習に取り組む態度〉</p>		
〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕		
全体 65時間 (「めざせ 語り部名人 ～自分の郷土を語る子に～」 60時間)		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
<p>(1) 田辺観光ボランティアガイドの会 …芳養地域にある芳養王子を出発とした出立王子までの語り部</p> <p>(2) 和歌山県世界遺産センター …次世代育成事業(世界遺産入門、現地学習)</p> <p>(3) 世界遺産マスター …次世代育成事業(現地学習)</p> <p>(4) 和歌山県世界遺産協議会 …世界遺産学習の資料提供</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	自分たちの住む地域の熊野古道について知ろう。	インターネットや資料、芳養町史等を使って調べる。	(知識及び技能) ロイロノート
2	自分たちの住む地域の熊野古道に関する場所を実際に歩こう。	田辺観光ボランティアガイドの会の方に同行いただき、実際に語り部をしてもらいながら歩く。	(学びに向かう力、人間性) ワークシート 観察
3	・観光ボランティアの会の方の語り部を参考に、調べて更に深めよう。 ・内容をまとめ、グループに分かれて語り部の台本作りをしよう。	ガイドの方の語り部を録画したものを参考に、どのように語り部をすれば伝わりやすいかを考える。	(思考力、判断力、表現力) ロイロノート (学びに向かう力、人間性) 観察
4	台本を元に、自分たちの語り部を撮影し、芳養小学校150周年式典で動画を公開しよう。	撮影にむけて、グループで協力して工夫する。何度もくり返し練習できる時間を確保する。	(思考力、判断力、表現力) 成果物 (学びに向かう力、人間性) 観察・自己評価
5	芳養地域から繋がる『世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道』について学び、実際に歩こう。	次世代育成事業に参加し、自分たちの地域からの繋がりを感ずることができるようにする。	(学びに向かう力、人間性) 観察・自己評価
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>成果 熊野古道語り部学習の実践を通して、子供たちが主体的に調べ、内容をまとめようとする態度が身についた。語り部という活動を目標設定とすることで、自分事ではなく、幅広い年代の多くの人に聞いてもらい知ってもらう為の工夫を意識することができたからである。学習を進めることで、語る為の知識をもつことで、自分たちの地域や『世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道』の素晴らしさを知ることにつながった。</p> <p>課題 語る時間の設定に難しさがあった。しっかり調べて、より詳しく伝えるためにまとめた内容であっても、時間の制限により、内容を削ったり、説明不足になったりした内容になってしまう場面があった。内容を厳選するという部分で大きな課題が見られた。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>世界遺産学習を通して、世界遺産というものは、世界や人々にとってどういうものであるかを学ぶ。そして、いかに大切な存在であるかを実感することが出来る。そんな中で、世界の宝が自分たちの住んでいる地域にあるということを知ると共に、自分たちの住んでいる地域の魅力を知ることができる。身近な存在からどんどん広げ、世界にあるたくさんの世界遺産に興味関心を抱き、そういったものを未来の世代にも残していきたいと思えたり、発信したりすることができる子を育成することができる。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>世界遺産学習を通して、世界遺産の素晴らしさや存在を知ることができる。しかし、身近に『世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道』があったり、世界にあるたくさんの世界遺産を知ったりしても、自分たちがそれらを守っていき、伝えていくという意識を持つことは難しい。これからの時代を自分たちが形成していくという意識を高めるためにも、世界遺産学習の延長の中でも「自分が」「自分たちが」という意識を高めていきたいと考える。また、世界遺産の大切さはもちろんであるが、身近な自然や地域の環境を守っていくことの大切さにも気づかせていく必要がある。</p>			

様式 2

令和5年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

総合的な学習の中で、自分たちが住む芳養地域の世界遺産に関わる場所やもの、道について調べてまとめた。そして、それらを語り部動画という形で、たくさんの人に伝える場面を設定した。そういった調べ学習や語り部学習の集大成として、次世代育成授業に参加した。児童は、実際に『世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道』を歩き、空気を味わうことで、偉大さや大切さを肌で感じる事ができた。



○児童の感想

実際に熊野古道を歩いて、世界遺産のすごさを感じることができました。そして、これからも、自分たちの手で守って行かなければならないと思いました。自分たちの住む地域を誇りに思います。